

# 大和証券グループの 社会的な役割と責任を果たすために

大和証券グループ本社  
執行役社長

鈴木茂晴



## ■ 日々の仕事で社会に貢献することこそがCSR

—「大和証券グループのCSR（企業の社会的責任）」とは何ですか？

私は、CSR活動の本質は、日々の私たちの仕事を通じてより良い社会の構築に貢献していくことだと思っています。

企業は事業活動を行なっていくために資金の調達を必要とし、一方で投資家はより良い資金運用を望んでいます。私たちの仕事は、そうした企業と投資家の橋渡しをすることであり、双方のニーズを満たすことによって経済・社会が円滑に維持され持続的に発展していくという、非常に公共性の高いものです。

私は、証券業務が本質的に持っているこうした公共的な性格が、私たちの社会的責任の核心部分だと考えます。

## ■ 委員会等設置会社への移行は自然な流れ

—2004年6月に委員会等設置会社に移行しましたが、経営体制への影響はありましたか？

委員会等設置会社になった時、私は少しも違和感を覚えませんでした。大和証券グループは1999年4月に持ち株会社体制に移行した時、経営諮問委員会と報酬委員会を設置しました。また2002年から社外取締役も選任しており、経営と監督の分離はもともと大和証券グループの文化として定着していたと言えます。

今後は株主の皆様との対話をさらに充実させていくことが重要だと思っています。大和証券グループが透明で開かれた会社であることを、より多くのステークホルダーに知ってもらいたいと思います。



## ■ 社会通念に反したビジネスは成り立たない

—コンプライアンスがグループ内に確実に浸透しているようですが、どのように評価していますか？

価格変動のある金融商品を取り扱う私たちのビジネスは、お客様が利益を得ることもあれば、損をすることもあります。そのようなリスクのある商品について、ご説明に不十分な点があれば、お客様に納得していただくことはできません。そういう意味で、コンプライアンス面には特に気をつけています。コンプライアンスとは単なる法令遵守ではなく、企業倫理や社会通念と調和した行動をとることです。私は、「法律やルールに違反していなくても、社会通念上おかしいと思うビジネスは決してしない」ことを従業員全員に明確に指示しています。もしそのようなビジネスで利益があがったとしても、それは「社会からの信頼」という私たちにとってもっとも大切なものを失わせてしまいます。

## ■ 正直なディスクロージャーが会社を救う

—ディスクロージャー（情報開示）についてはどのように考えていますか？

企業のなかでは多くの人間が活動しており、ときには過ちをおかすこともあります。重要なことは、不幸にもそうした過ちが発生した時に、事実関係はもちろん、原因や対応策をどれだけ迅速・正確に公表できるかだと考えます。問題を公表するのは企業として恥ずかしいことですが、それを隠すことはもっと恥ずべきことです。

「隠蔽は会社の存亡の問題につながる。正直なディスクロージャーは会社を救う。」それが普遍的な真理だと思います。

## ■ SRIファンドは将来有望な企業への投資

—本業におけるCSR活動としてSRI（社会的責任投資）を推進していますが、今後の見通しは？

CSRに力を入れている企業は、将来成長する可能性が高い企業であり、SRIファンドはパフォーマンスにおいても長期的に期待できると考えています。投資家の皆様にもその点を理解していただければ、今後大きく成長する分野だと思います。

## ■ 持続可能な社会に向けて環境問題にも注力

—2004年11月に国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）に加盟した理由は何ですか？

金融機関が本業を通して社会の持続可能な発展に貢献することであることを明確に宣言した「環境と持続可能な発展に関する金融機関声明」に署名しました。この声明は、本業でCSRを行なうという大和証券グループの基本理念に合致しています。

「経済発展と環境保護の両立」は21世紀の人間社会の重要なテーマであり、その実現のために金融機関の一員として積極的に取り組んでいきたいと考えています。